



ピクタインダオン

(おさみがりにぼし)

第 28 号

発行日 2021年1月1日

発行人 矢代 しず

秋田市御野塩7-1-29-305

風

朱色の壁が

日ごとに 崩れていく

ふさいでいた壁の向こうには

気ままな風の群れ

風の群れは

鮮やかに

光の道に

両手をひろげ入っていく

雨の日も

晴れの日も

天の気紛れに身をゆだねていた

風が自由に行きかう

壁のない まぶしい道

新しい世界が開かれていく

腕時計

遺影の傍そばの腕時計は

母の形見

二十年も前に

奮発して贈ったもの

チョコレート色のベルトには

小さなひっかき傷――

母が亡くなって五年

時計は

十一時十四分のまま

俳句の会に出かけるときは

お守りとして

いつも身につけていた

日焼けした左の腕を

少し持ち上げて時計をみた
澄ました顔つきで

時計はもう修理もできなかつたが
刻んだ時間ときの中から

時折

母の声や匂がきこえてくる

わたしは

いまでも見守ってくれている

母の心の時を

娘たちに伝えている

現在いま

娘たちは

みずからの時を

たくましく刻んでいる



故郷の音

九月八日は母の誕生日

生家の跡地に立ち

白っぽく乾いた畑の片隅に

母の植えたコスモスを見ていると

遠くから

なつかしい風景が聞こえてくる

せかせか走る

父のゴム長

くつろいだ足音の

母のつつかけ

おおらかな足どりの

兄のズック靴

……

障子一枚隔てた

土間の奥から

わたしを呼ぶ

母の声

(今年も来てけだなだが*！)

今年もきたよ

お誕生日

おめでとう！

満開のコスモスは

やわらいだ喜びを湛えていた

兄も 母も 父も

みんな逝った

お墓も墓じまいされた

残っているのは

人手に渡った

この生家の跡地だけ――

わたしたち姉妹には

ここが故郷

体に刻みこまれている

記憶遺産

やがて

足音は

しずかに

土に還っていった

* 「今年も来てくれたのね！」の秋田弁

男

山霧は

岩膚を這い

休みなく

白い炎を上げている

不意に

狐色の人影が

浮かびあがった

しつぽり濡れていた

見知らぬ男は そのまま

闇の世界に

下りていった

下界では

突然の禍に

人びとは

気ふさぎな生活を送っている

平常

と

非常

との

乖離は

人の心を

手荒にみだしていく

己を

攻撃的に

疑わしいヒト

を

探りあてる

言葉

かれらには

凝った瞳

塞いだ耳

閉ざした口

噛んだ唇の傷痕

さえ見えなかったのだろう

立ちこめていた

霧も

次第にうすれ

男が頂上に向かう

足音が聞こえてきた

夢

遮るものもない

あざやかな緑の海には

誰もいない

虫の音さえも聞こえてこない

陽射しは

やさしい

あたたかな郷愁をかもしだす

草の波にまどわれて

靴を脱ぎ

草の上に仰向けになると

風がふくよかな香りを運んでくる

どのくらい経っただろうか

目を開けると

巨大化した草が

空を覆い隠している

小さい体から

つめたい驟雨の汗が流れる

不意に

冬の木霊のような声が聞こえてくる

オイデ オイデ

呼びよせる肌寒い声のなかに

さ迷う霊魂を感じた

爪先から重く伸しかかる

正体不明の

霊

届かない声

動かない躰

殺される！

突然

黒い音が駆けぬけた

草の丈が縮んだ

瞬間

指先がわずかに動き

縛られていた鎖がほどけていった

目覚めた

時刻

西日が

やわらかな草の葉を染めて

さざ波は朱色の温度で這いあがってきた

徒然のエチュード 25

①

スズメが枯れ葉のように力なく

草むらに落ちる寸前

カラスが

スズメをくわえて栗の木へ

黒いハンターは

両足で押さえてついはみはじめた

スズメは茶色い塊と化した

②

馬鹿なマネはよせ

じさまが

じさまのフリして

どくするの！

③

御強請り

これ読める？

子どもは

強請り声

女性は

甘え上手

おれおれ詐欺は

強請れ者

チンピラは

強請れ言

答えは

おねだり

(^-)- ☆

④
カレンダーを
めくるのを忘れた！

でも
年齢は間違といなく
とつていく

⑤
1 + 1 = 2
これは算数

1 + 1 = 1
1 + 1 = 2 にも 3 にも なります
1 + 1 = いくつ に しましょ うか
これが詩

⑥
問診票に
10月12日と記入

帰宅後
ふと気づいた
今日は13日！

ついに始まったか
呆け!!

⑦
「買い取ります」の看板

わたしも売れるかな？

引き取り代がかかりますよ！

【あとがき】

あけまして

おめでとうございます

おかげさまで、この春に「ピットインダウン」は六歳を迎えます。こつこつと号を積み上げ、気づいたら第28号に至りました。

その間、向日性を詩の言葉によって、わたしは支えられてきたように感じます。

これを期に創刊時の熱い想いを忘れずに、詩作に精進して参りたいと思います。

本年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。
すばらしい一年でありますように。

【ご案内】

矢代レイ 詩展 — 詩とわたし —

日時 令和3年1月4日(月)～1月29日(金)

時間 9時～15時 無料

場所 秋田銀行本店 ロビー

秋田市山王3-2-1

なお、土曜日、日曜日、祭日はお休みです。

お問い合わせは、矢代レイまで。

☎ 090-1935-1180

